
小島道裕年譜

- 1980年** (昭和 55 年)
3月 京都大学文学部史学科卒業
- 1982年** (昭和 57 年)
3月 京都大学大学院文学研究科修士課程終了
- 1985年** (昭和 60 年)
3月 京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
4月 京都大学研修員 (～ 1986 年 5 月)
4月 橘女子大学非常勤講師 (～ 1989 年 3 月)
10月 財団法人滋賀総合研究所非常勤嘱託 (～ 1986 年 5 月)
- 1986年** (昭和 61 年)
6月 京都大学文学部助手 (～ 1989 年 3 月)
- 1989年** (平成元年)
4月 国立歴史民俗博物館歴史研究部助手 (～ 1994 年 3 月)
- 1994年** (平成 6 年)
4月 国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授 (～ 2004 年 3 月)
4月 お茶の水女子大学非常勤講師 (～ 1995 年 3 月)
- 1995年** (平成 7 年)
4月 武蔵大学非常勤講師 (～ 1996 年 3 月)
- 1998年** (平成 10 年)
5月 イギリスにて在外研究 (ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館訪問研究員) (～ 1999 年 3 月)
- 1999年** (平成 11 年)
4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻助教授 (併任) (～ 2007 年 3 月)
4月 滋賀県立大学非常勤講師 (～ 2003 年 3 月)
- 2004年** (平成 16 年)
4月 国立歴史民俗博物館研究部助教授 (～ 2007 年 3 月)
- 2006年** (平成 18 年)
7月 博士 (文学, 京都大学) 取得
- 2007年** (平成 19 年)
4月 国立歴史民俗博物館研究部准教授 (～ 2008 年 3 月)
4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻准教授 (併任) (～ 2008 年 3 月)
- 2008年** (平成 20 年)
4月 国立歴史民俗博物館研究部教授
4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻教授 (併任)
4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻 専攻長 (～ 2010 年 3 月)
- 2011年** (平成 23 年)
4月 国立歴史民俗博物館 博物館資源センター長 (～ 2013 年 3 月)
- 2014年** (平成 26 年)
4月 愛知県立芸術大学非常勤講師 (～ 2015 年 3 月)
7月 国立台湾歴史博物館研修課程「博物館, 歴史物件與記憶」講師
- 2015年** (平成 27 年)
4月 総合研究大学院大学文化科学研究科 研究科長 (～ 2017 年 3 月)
4月 千葉市民文化大学講師 (～ 2016 年 3 月)
-

2016年（平成28年）

4月 愛知県立芸術大学非常勤講師（～2017年3月）

2020年（令和2年）

4月 愛知県立芸術大学非常勤講師（～2021年3月）

2022年（令和4年）

3月 国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学を定年により退職

国立歴史民俗博物館企画展示プロジェクト委員

1989年（平成元年）10月～11月

中世の武家文書一館蔵資料から一

1993年（平成5年）3月～5月

荘園絵図とその世界

1994年（平成6年）9月～11月

近世の武家社会

1998年（平成10年）3月～5月

陶磁器の文化史

1998年（平成10年）9月～10月

幻の中世都市十三湊一海から見た北の中世一

2000年（平成12年）10月～11月

天下統一と城（展示企画進行担当）

2002年（平成14年）10月～12月

中世寺院の姿とくらし一密教・禅僧・湯屋一

2006年（平成18年）3月～5月

日本の神々と祭り一神社とは何か一

2007年（平成19年）3月～5月

西のみやこ 東のみやこ一描かれた中・近世都市一（展示副代表）

2008年（平成20年）7月～8月

旅一江戸の旅から鉄道旅行へ一

2008年（平成20年）10月～11月

〔染〕と〔織〕の肖像一日本と韓国・守り伝えられた染織品一

2010年（平成22年）10月～12月

武士とは何か

2012年（平成24年）3月～5月

都市を描く一京都と江戸一（人間文化研究機構展示、歴博展代表）

2013年（平成25年）10月～12月

中世の古文書一機能と形一（展示代表）

2017年（平成29年）3月～5月

デジタルで楽しむ歴史資料（展示副代表）

2018年（平成30年）10月～12月

日本の中世文書一機能と形と国際比較一（展示代表）

2020年（令和2年）10月～12月

ジェンダー
性差の日本史（展示副代表）

2022年（令和4年）3月～5月

中世武士団一地域に生きた武家の領主一

国立歴史民俗博物館特集展示プロジェクト委員

2011年（平成23年）11月～12月

マリア十五玄義図の探究（展示代表）

2012年（平成24年）4月～5月

近世の風俗画（展示代表）

2012年（平成24年）12月～2013年（平成25年）1月

元禄の堺大絵図—巨大都市図を歩く—（展示副代表）

2016年（平成28年）8月～9月

戦国の兜と旗（展示代表）

2017年（平成29年）9月～10月

年号と朝廷（展示副代表）

小島道裕主要業績目録

I 著書

【単著】

1. 『城と城下一近江戦国誌一』 新人物往来社, 1997年5月, pp.1-246 (再刊: 吉川弘文館, 2018年10月, pp.1-270)
2. 『イギリスの博物館で—博物館教育の現場から— (歴博ブックレット16)』 国立歴史民俗博物館振興会, 2000年10月, pp.1-85
3. 『戦国・織豊期の都市と地域』 青史出版, 2005年11月, pp.1-356
4. 『信長とは何か』 講談社, 2006年3月, pp.1-238
5. 『描かれた戦国の京都—洛中洛外図屏風を読む—』 吉川弘文館, 2009年10月, pp.1-186
6. 『洛中洛外図屏風一つくられた<京都>を読み解く—』 吉川弘文館, 2016年4月, pp.1-227
7. 『中世の古文書入門—読めなくても大丈夫!—』 河出書房新社, 2016年10月, pp.1-127

【編著】

1. 『歴博フォーラム 天下統一と城』 千田嘉博・小島道裕編, 塙書房, 2002年3月, pp.1-314
2. 『生涯学習時代における博物館教育・教育員養成および歴史展示に関する総合的研究 (科学研究費報告書)』 佐原真・小島道裕編, 国立歴史民俗博物館, 2004年3月, pp.1-119
3. 『武士関係資料の総合化—比較史および異文化表象の素材として—』 小島道裕編, 人間文化研究機構, 2008年2月, pp.1-75
4. 『[[共同研究] 歴史展示における「異文化」表象の基礎的研究 (国立歴史民俗博物館研究報告140集)』 久留島浩・小島道裕編, 国立歴史民俗博物館, 2008年3月, pp.1-239
5. 『史跡で読む日本の歴史 第7巻 戦国の時代』 小島道裕編, 吉川弘文館, 2009年12月, pp.1-250
6. 『美術資料に歴史を読む—漆器と洛中洛外図— (歴史研究の最前線11)』 日高薫・小島道裕編, 総研大日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館, 2009年3月, pp.1-113
7. 『武士と騎士—日欧比較中近世史の研究—』 小島道裕編, 思文閣出版, 2010年3月, pp.1-479
8. 『[[共同研究] 洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究 (国立歴史民俗博物館研究報告180集)』 小島道裕編, 国立歴史民俗博物館, 2014年2月, pp.1-229
9. 『鋏形蕙斎画 近世職人尽絵詞』 大高洋司・小島道裕・大久保純一編, 勉誠出版, 2017年2月, pp.1-213
10. 『古文書の様式と国際比較』 小島道裕・田中大喜・荒木和憲編, 国立歴史民俗博物館監修, 勉誠出版, 2020年2月, pp.1-402
11. 『[[月次祭礼図屏風] の復元と研究—よみがえる室町京都のかがやき—』 岩永てるみ・阪野智啓・高岸輝・小島道裕編, 思文閣出版, 2020年5月, pp.1-146
12. 『[[共同研究] 中世文書の様式と機能および国際比較と活用に関する研究 (国立歴史民俗博物館研究報告224集)』 小島道裕編, 国立歴史民俗博物館, 2021年3月, pp.1-311

【共著】

1. 「戦国・織豊期の城下町—城下町における「町」の成立—」 高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門Ⅱ 町』 東京大学出版会, 1990年2月, pp.21-39 (再録: 池上裕子・稲葉継陽編『展望日本歴史12 戦国社会』 東京堂出版, 2001年8月, pp.267-286)
2. 「平地城館趾と寺院・村落—近江の事例から—」 村田修三編『中世城郭研究論集』 新人物往来社, 1990年5月, pp.397-430 (再録: 小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
3. 『城館調査ハンドブック』 (千田嘉博・前川要との共著) 新人物往来社, 1993年10月, pp.1-275
4. 「秀吉の朝鮮出兵に参加した一土豪」 福田豊彦編『中世の社会と武力』 吉川弘文館, 1994年8月, pp.131-149 (再録: 小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)

-
5. 「城と都市」(千田嘉博との共著) 朝尾直弘ほか編『岩波講座日本通史 中世4』岩波書店, 1994年11月, pp.195-232
 6. 「あとがき」・「付記——一九九四年度の調査について——」国立歴史民俗博物館編『歴博フォーラム 中世都市十三湊と安藤氏』新人物往来社, 1994年12月, pp.267-271・272-273
 7. 「レプリカのできるまで」国立歴史民俗博物館編『歴博フォーラム 描かれた荘園の世界』新人物往来社, 1995年3月, pp.18-25
 8. 「楽市令と制札」朝尾直弘教授退官記念会編『日本国家の史的特質 近世・近代』思文閣出版, 1995年4月, pp.61-82 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 9. 「近江金森一揆の背景」浄土真宗教学研究所・本願寺史料研究所編『講座蓮如 第1巻』平凡社, 1996年12月, pp.307-333 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 10. 「あとがき」国立歴史民俗博物館編『歴博フォーラム 中世商人の世界』日本エディタースクール出版部, 1998年3月, pp.255-257
 11. 「歴史展示をつくるとは一歴博総合展示を手がかりに」・「討論 歴史展示となにか」(久留島浩・吉田憲司・金子淳・青木俊也・竹内有理・岩城卓二との共著) 国立歴史民俗博物館編『歴史展示とは何か—歴博フォーラム「歴史系博物館の現在・未来」—』アム・プロモーション, 2003年11月, pp.111-133・195-229
 12. 「博物館教育の可能性」・「討論 博物館教育の可能性」(ピーター・ミルウォード, 李基媛, 久留島浩との共著) 国立歴史民俗博物館編『歴史展示のメッセージ』アム・プロモーション, 2004年12月, pp.193-194・306-322
 13. 「中世地方都市データベースの試み」千田嘉博・矢田俊文編『都市と城館の中世—学融合研究の試み—』高志書院, 2010年4月, pp.161-174
 14. 「さまざまな館・園の教育活動の特色: 歴史博物館」・「教育担当学芸員の仕事の多様性: 歴史博物館」・「教育プログラムの作成」小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄編『博物館教育論—新しい博物館教育を描き出す—』ぎょうせい, 2012年3月, pp.100-103・202-203・224-227
 15. 「戦国・織豊期城下町研究からみた益田」中世都市研究会編『日本海交易と都市』山川出版社, 2016年8月, pp.43-57
 16. 「洛中洛外図屏風をデジタルで読む—人物データベースの試み—」・「顕微鏡を用いた古文書料紙の自然化学分析の試み」(渋谷綾子との共著) 国立歴史民俗博物館編『歴史研究と<総合資料学>』吉川弘文館, 2018年3月, pp.18-33・98-120
 17. 国立歴史民俗博物館編『わくわく! 探検 れきはく日本の歴史2 中世』吉川弘文館, 2018年7月, pp.31-45・74-75
 18. 「性差の日本史」展示プロジェクト編『新書版 ^{ジェンダー}性差の日本史』集英社インターナショナル, 2021年10月 (編集担当)
 19. 『文化財が紡ぐ佐倉の歴史—宝金剛寺と北条氏勝—』皓月山宝金剛寺編集・発行, 2022年2月, pp.48-54・70-71

II 論文

1. 「戦国期城下町の構造」『日本史研究』257号, 1984年1月, pp.30-59 (再録: ①矢守一彦編『城下町の地域構造』名著出版, 1987年1月, pp.37-75 ②小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 2. 「金森寺内町について—関係史料の再検討—」『史林』67-4号, 1984年7月, pp.124-139 (再録: ①藤木久志編『戦国大名論集 17 織田政権の研究』吉川弘文館, 1985年11月, pp.185-206, ②大澤研一・仁木宏編『寺内町の研究 第3巻 地域の中の寺内町』法蔵館, 1998年10月, pp.271-292, ③小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 3. 「織豊期の都市法と都市遺構」『国立歴史民俗博物館研究報告』8集 (共同研究「中世の地方政治都市」), 1985年12月, pp.251-293 (再録: ①『三木史談』33号, 1995年1月, 第4章のみ, ②小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
-

-
4. 「「安土町奉行」木村次郎左衛門尉について」『近江地方史研究』25号, 1989年6月, pp.1-25 (再録: 小島道裕『城と城下—近江戦国誌—』)
 5. 「戦国期城下町研究ノート—郡山城・吉田, 春日山, 岡豊—」(前川要・千田嘉博との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』32集, 1991年3月, pp.71-140
 6. 「岐阜円徳寺所蔵の楽市令制札について」『国立歴史民俗博物館研究報告』35集, 1991年11月, pp.297-311 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 7. 「博物館とレプリカ資料」『国立歴史民俗博物館研究報告』50集, 1993年2月, pp.443-460
 8. 「広場と制札—現存の中世制札から—」『国立歴史民俗博物館研究報告』67集 (共同研究「都市における交流空間の史的的研究—広場・道と川—」), 1996年3月, pp.176-196 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 9. 「都市の場・地域と流通・消費」『国立歴史民俗博物館研究報告』92集 (古代・中世の都市をめぐる消費と流通, 共同研究「日本における都市生活史の研究」), 2002年2月, pp.227-248 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 10. 「鼎談・城と戦い」(佐原真・千田嘉博との共著)「京都から江戸へ—「天下統一」の社会的背景—」・「花の御所の糸桜」千田嘉博・小島道裕編『天下統一と城』塙書房, 2002年3月, pp.2-23・125-159・238-241
 11. 「地域的祭祀の起源と機能」『国立歴史民俗博物館研究報告』98集 (神社祭祀と村落祭祀に関する調査研究, 特定研究「近畿の村落社会と民衆」), 2003年3月, pp.5-16 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 12. 「江馬氏館と江馬氏一室町期の国人領主と館—」『国立歴史民俗博物館研究報告』104集 (共同研究「室町期荘園制の研究」), 2003年3月, pp.169-183 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 13. 「ワークシートによる家族向け教育プログラム」『国立歴史民俗博物館研究報告』108集, 2003年10月, pp.353-378
 14. 「一五世紀の社会的画期と集落—特に水利・水論をめぐる—」『琵琶湖博物館研究調査報告書』21集, 2004年1月, pp.109-120 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 15. 「中世後期の旅と消費」『国立歴史民俗博物館研究報告』113集 (古代・中世に流通・消費とその場, 共同研究「日本における都市生活史の研究」), 2004年3月, pp.113-134 (再録: 小島道裕『戦国・織豊期の都市と地域』)
 16. “Developing Exhibitions as Resources of Learning - in Case of Worksheet and History Exhibition-” ICOM 2004 Seoul CECA, 2004年10月
 17. 「「日本中世都市データベース(案)」・「日本中世都市文献目録データベース(案)」について」『国立歴史民俗博物館研究報告』127集 (共同研究「中世都市の調査分析方法に関する研究」), 2006年3月, pp.53-59
 18. 「情報資源共有化のための博物館資料—データベースのマッピングとその評価—」(安達文夫・鈴木卓二・高橋一樹との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』125集, 2006年3月, pp.185-214
 19. 「展示の理解の評価に関する検討」(安達文夫・竹内有理・久留島浩との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』130集, 2006年3月, pp.1-20
 20. 「歴史博物館における展示と教育」『二〇〇五年度国立歴史民俗博物館国際研究集会—韓国の民俗学・日本の民俗学Ⅱ—』国立歴史民俗博物館, 2006年9月, pp.129-138
 21. 「洛中洛外図屏風(歴博甲本)に見る中世末期の社会」『韓国の民俗学・日本の民俗学』3号, 2007年11月, pp.137-142
 22. 「洛中洛外図屏風に描かれた「武士」小島道裕編『武士関係資料の総合化—比較史および異文化表象の素材として—』人間文化研究機構, 2008年2月, pp.44-51
 23. 「ネットワークで公開する電子展示の利用特性と評価に関する検討」(安達文夫・高橋一樹との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』139集, 2008年3月, pp.1-16
 24. 「歴史展示における模型の意味と活用」『国立歴史民俗博物館研究報告』140集 (共同研究「歴史展示に
-

- おける「異文化」表象の基礎的研究)), 2008年3月, pp.201-211
25. 「洛中洛外図屏風歴博甲本の成立と初期洛中洛外図屏風諸本」『国立歴史民俗博物館研究報告』145集, 2008年11月, pp.317-347
 26. 「洛中洛外図屏風「東博模本」の成立事情および「朝倉本」に関する考察」『文化科学研究』5号, 2009年3月, pp.5-26
 27. 「洛中洛外図屏風の登場人物」日高薫・小島道裕編『美術資料に歴史を読む—漆器と洛中洛外図—(歴史研究の最前線11)』総研大日本歴史研究専攻・国立歴史民俗博物館, 2009年3月, pp.51-92
 28. 「戦国の時代」・「国人館と守護所」・「城下町の発達」・「港町・寺内町など」小島道裕編『史跡で読む日本の歴史 第7巻 戦国の時代』吉川弘文館, 2009年12月, pp.1-6・8-31・114-139・140-157
 29. 「洛中洛外図屏風と描かれた公武関係」小島道裕編『武士と騎士—日欧比較中近世史の研究—』思文閣出版, 2010年3月, pp.273-292
 30. 「「中世都市」をどう把握するか—中世地方都市データベースの試み—」千田嘉博・矢田俊文編『都市と城館の中世: 学融合研究の試み』高志書院, 2010年4月, pp.161-174
 31. 「洛中洛外図屏風の使用に関する考察」『家具道具室内史』2号, 2010年5月, pp.17-29
 32. 「博物館における教育の意味」『社会教育』770号, 2010年8月, pp.6-10
 33. 「戦国期城下町と楽市令再考—仁木宏氏の批判に就いて—」『日本史研究』587号, 2011年7月, pp.54-67
 34. 「「武士関係資料」再論」『国立歴史民俗博物館研究報告』182集(共同研究「中近世における武士と武家の資料論的研究」), 2014年1月, pp.201-206
 35. 「洛中洛外図屏風歴博甲本の制作事情をめぐって」『国立歴史民俗博物館研究報告』180集(共同研究「洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究」), 2014年2月, pp.107-128
 36. 「近世初期の風俗画に見える「うどん屋」について」『国立歴史民俗博物館研究報告』200集, 2016年1月, pp.127-144
 37. 「「近世職人尽絵詞」—江戸賛歌とその背景—」大高洋司・小島道裕・大久保純一編『楯形蕙斎画 近世職人尽絵詞』勉誠出版, 2017年2月, pp.163-166
 38. 「「堺大絵図」の修理・撮影・展示」『国立歴史民俗博物館研究報告』204集(共同研究「元禄「堺大絵図」に示された堺の都市構造に関する総合的研究」), 2017年2月, pp.141-148
 39. 「洛中洛外図屏風「歴博甲本」と「歴博乙本」の人物データベースによる比較」(森下佳菜・大藪海との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』209集, 2018年3月, pp.123-155
 40. 「中世の「札」—その形と意味—」『歴史と地理』727号, 2019年9月, pp.23-30
 41. 「戦国大名の印判状について—北条氏の「虎の印判」は東アジア標準か—」小島道裕・田中大喜・荒木和憲編『古文書の様式と国際比較』勉誠出版, 2020年2月, pp.121-144
 42. 「「月次祭礼図屏風」に描かれた幕府と神社」岩永てるみ・阪野智啓・高岸輝・小島道裕編『「月次祭礼図屏風」の復元と研究—よみがえる室町京都のかがやき—』思文閣出版, 2020年5月, pp.124-131
 43. 「絵画資料に描かれた中世の船—『日本絵巻大成』に見える船の画像一覧—」『国立歴史民俗博物館研究報告』223集(共同研究「中世日本の国際交流における海上交通に関する研究」), 2021年3月, pp.243-252
 44. 「印判状に見られる日付上押印について」『国立歴史民俗博物館研究報告』224集(共同研究「中世文書の様式と機能および国際比較と活用に関する研究」), 2021年3月, pp.129-148
 45. 「戦国大名の印判—公印/個人印の区別をめぐって—」『日本歴史』884号, 2022年1月, pp.36-43
 46. 「特集展示「年号と朝廷」」『国立歴史民俗博物館研究報告』233集(共同研究「広橋家旧蔵文書を中心とする年号勘文資料の整理と研究」), 2022年3月, pp.181-199
 47. 「中世末期～近世初頭における真言宗寺院の本末関係と僧侶の旅—宝金剛寺, 千手院, 宝珠院の所蔵資料から—」『文化財が紡ぐ佐倉の歴史—宝金剛寺と北条氏勝—』皓月山宝金剛寺編集・発行, 2022年2月, pp.48-54

Ⅲ 書評・紹介・学会動向

1. 「紹介：『日本城郭大系 11 京都・滋賀・福井』『史林』64-2号, 1981年3月, pp.288-289
2. 「紹介：仲村研編『今堀日吉神社文書集成』『日本史研究』243号, 1982年11月, pp.78-79
3. 「紹介：『摂津高槻城一本丸跡発掘調査報告書一』『史林』68-1号, 1985年1月, pp.157-158
4. 「紹介：今谷明著『戦国三好一族』『史林』69-1号, 1986年1月, p.139
5. 「学界動向：1985年の歴史学界一回顧と展望—日本中世」（分担執筆）『史学雑誌』95-5号, 1986年5月, pp.684-689
6. 「学界動向：中世城館研究と中世都市研究—「第三回全国城郭研究者セミナー」と「シンポジウム—乗谷と中世都市」に参加して—」『新しい歴史学のために』185号, 1986年11月, pp.29-32
7. 「時評：山城国一揆と戦後歴史学」『日本史研究』293号, 1987年1月, pp.63-66
8. 「時評：拙稿「山城国一揆と戦後歴史学」について（補足）」『日本史研究』296号, 1987年4月, pp.69-70
9. 「書評：小林健太郎著『戦国城下町の研究』『史林』70-4号, 1987年7月, pp.662-670
10. 「紹介：村田修三編『図説中世城郭事典』『日本史研究』309号, 1988年5月, pp.76-77
11. 「書評と紹介：福井市編『福井市史 資料編別巻絵図・地図』『日本歴史』501号, 1990年2月, pp.114-116
12. 「紹介：網野善彦・石井進・福田豊彦監修『よみがえる中世—一〜四』『地方史研究』225号, 1990年6月, pp.80-81
13. 「参加記：「中世の里シンポジウム—「今、歴史学は地域に何ができるか」に参加して—」『新しい歴史学のために』202号, 1991年3月, pp.27-29（再録：中世の里シンポジウム実行委員会編『北の中世—史跡整備と歴史研究—』日本エディタースクール出版部, 1992年1月, pp.263-266）
14. 「書評と紹介：前川要著『都市考古学の研究』『日本歴史』534号, 1992年11月, pp.114-115
15. 「書評：石井進・萩原三雄編『中世の城と考古学』『日本史研究』365号, 1993年1月, pp.74-83
16. 「紹介：川岡勉著『河野氏の歴史と道後湯築城』『日本史研究』368号, 1993年4月, pp.162-163
17. 「記録：第13回歴博フォーラム『荘園絵図とその世界』」『歴博』59号, 1993年6月, pp.12-13
18. 「記録：第14回歴博フォーラム『遺跡にさぐる北日本—中世都市十三湊と安藤氏—'93市浦シンポジウム』」『歴博』63号, 1994年2月, pp.10-11
19. 「書評：佐藤信・五味文彦編『城と館を掘る・読む—古代から中世へ—』『歴史学研究』681号, 1996年2月, pp.44-46
20. 「書評：国立歴史民俗博物館編『新しい史料学を求めて』」『歴博』84号, 1997年9月, p.24
21. 「書評：仁木宏『空間・公・共同体—中世都市から近世都市へ—』『歴史評論』584号, 1998年12月, pp.102-106
22. 「書評：日本史研究会編『豊臣秀吉と京都—聚楽第・御土居と伏見城—』『歴史評論』641号, 2003年9月, pp.93-96・110
23. 「自著紹介：国立歴史民俗博物館編『歴史展示とは何か—歴博フォーラム「歴史系博物館の現在・未来—』」『歴博』125号, 2004年7月, p.29
24. 「自著紹介：国立歴史民俗博物館編『歴史展示のメッセージ 歴博国際シンポジウム「歴史展示を考える—民族・戦争・教育—』」『歴博』129号, 2005年3月, p.29
25. 「書評：山村亜紀著『中世都市の空間構造』」『歴史評論』718号, 2010年2月, pp.87-91
26. 「紹介：河内将芳著『信長が見た戦国京都—城塞に囲まれた異貌の都—』『史学雑誌』120-7号, 2011年7月, pp.1293-1294
27. 「シンポジウム「災害と歴史資料の保存」に参加して」『地方史研究』359号, 2012年10月, pp.88-90
28. 「書評と紹介：高橋康夫著『海の京都—日本琉球都市史研究—』」『日本歴史』819号, 2016年8月, pp.102-104
29. 「書評：高谷知佳著『中世の法秩序と都市社会』」『日本史研究』657号, 2017年5月, pp.49-55
30. 「書評と紹介：矢田俊文編『戦国期文書論』」『日本歴史』871号, 2020年12月, pp.105-107

IV 調査報告・資料紹介・展示図録など

1. 「六角氏の城下町石寺について」『観音寺城と佐々木六角氏』4号, 1981年5月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 2. 「城館研究と地名調査」『近江の城』1号, 1983年10月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 3. 「頓宮城趾の調査」『近江の城』6号, 1984年3月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 4. 「城館趾と伝承」『近江の城』10号, 1984年11月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 5. 「平地城館趾の調査から」『近江の城』17号, 1986年1月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 6. 「平地城館趾調査の方法と課題」『滋賀県中世城郭分布調査』4号, 1986年3月
 7. 「安土と近江八幡の都市空間」『季刊自然と文化』13号, 1986年6月
 8. 「安土城下町案内」『近江の城』23号, 1987年1月
 9. 「平地城館趾調査の方法と課題(Ⅱ)」『滋賀県中世城郭分布調査』5号, 1987年3月
 10. 「近江の城と町」『シンポジウム「城を考える」講演集』彦根市ほか, 1988年1月
 11. 「戦国・織豊期の地方城下町について」『橘史学』2号, 1987年10月
 12. 「木村氏と矢島氏-旧野洲郡の二つの城館趾をめぐって」『近江の城』29号, 1988年5月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 13. 「小谷城の城下について」『史跡小谷城跡-浅井氏三代の城郭と城下町』湖北町教育委員会・小谷城址保勝会, 1988年10月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 14. 「戦国・織豊期の城下町-都市の建設と移転-」東海埋蔵文化財研究会編『清須-織豊期の城と都市-研究報告編』東海埋蔵文化財研究会, 1989年5月
 15. 「中世城館の残りかた」『歴博』35号, 1989年6月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 16. 「上平寺城下について-地名と絵図-」『近江の城』34号, 1989年8月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 17. 「豊後若林文書の舞台」『企画展示図録 中世の武家文書』国立歴史民俗博物館, 1989年10月
 18. 「城館関係地名の地域性」『日本歴史』499号, 1989年12月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 19. 「矢島共有文書(滋賀県守山市)について(内,第二章「矢島村と矢島御所」・第五章「絵図と矢島村の水利」)」『京都橘女子大学研究紀要』16号, 1989年12月
 20. 「安土-中世の継承と超克-」・「一乗谷-中心と周縁-」高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史研究Ⅱ町』東京大学出版会, 1990年2月
 21. 「伊香・東浅井郡の平地城館趾」『滋賀県中世城館分布調査』7号, 1990年3月
 22. 「秀吉の朝鮮出兵と倭城」『歴博』42号, 1990年8月
 23. 「郡山城・吉田(遺跡をたずねて)」『日本史研究』337号, 1990年9月
 24. 「戦国・織豊期の城下町について-城館趾研究との関係をめぐって-」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』3号, 1990年12月
 25. 「『六角義堯』について-流浪の六角氏-」『近江の城』37号, 1991年2月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 26. 「高島郡の平地城館趾」『滋賀県中世城郭分布調査』8号, 1991年3月
 27. 「安土城下と楽市令」『図説織田信長』河出書房新社, 1991年12月
 28. 「志苔館と勝山館(遺跡をたずねて)」『日本史研究』354号, 1992年2月
 29. 「永禄六年北国下り遣足帳(山本光正との共著)・「対馬番家(小宮家)文書」(岩城卓二との共著)」『国立歴史民俗博物館研究報告』39集, 1992年3月
 30. 「旧志賀郡の平地城館趾」『滋賀県中世城郭分布調査』9号, 1992年3月
 31. 「平地城館と村落」『シンポジウム「小規模城館」研究報告編』第8回全国城郭研究者セミナー実行委員会, 1992年8月
 32. 「石見亀井家文書(湯浅隆との共著)」『国立歴史民俗博物館研究報告』45集, 1992年12月
 33. 「福島城・十三湊遺跡1991年度調査概報」(千田嘉博・前川要・宇野隆夫との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』48集, 1993年3月
-

-
34. 「十三湊と福島城について」『地方史研究』244号, 1993年8月
 35. 「戦国期城下町から織豊期城下町へ」『年報都市史研究』1号, 1993年11月
 36. 「安土一近世城下町の成立」網野善彦編『平安京と水辺の都市, そして安土〔朝日百科日本の歴史別冊「歴史を読みなおす」6〕』朝日新聞社, 1993年12月(再録:小島道裕『城と城下一近江戦国誌一』)
 37. 「荘園関係文献データベースに見る荘園研究の動向」科学研究費報告書『日本荘園データベースの作成と利用に関する研究』国立歴史民俗博物館, 1994年3月
 38. 「古文書の表情一秀吉文書の変化一」・「資料解題<近世武家の成立>」『企画展示図録 近世の武家社会』国立歴史民俗博物館, 1994年9月
 39. 「御成敗式目絵抄」『歴博』68号, 1994年12月
 40. 「城下町調査」『屋代城跡範囲確認調査報告書』更埴市教育委員会, 1995年3月
 41. 「地籍図及び絵図による検討」『江馬氏城館跡一下館跡発掘調査報告書Ⅰ一』神岡町教育委員会・富山大学考古学研究室, 1995年3月
 42. 「戦国期城下町としての益田」『歴史手帖』23-5号, 1995年5月
 43. 「遺跡の位置と歴史的環境」(榊原滋高との共著)・「文献および地籍図による検討」・「中世十三湊の構造」『国立歴史民俗博物館研究報告』64集(青森県十三湊・福島城の研究, 特定研究「北部日本における文化交流」), 1995年11月
 44. 「高松宮家本職人歌合絵巻」(神庭信幸との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』66集, 1996年3月
 45. 「十三湊遺跡と関連遺跡の研究略史」『十三湊遺跡Ⅰ一青森県第1次発掘調査概報一』青森県教育委員会, 1996年3月
 46. 「文献史料による検討」『江馬氏城館跡一下館跡発掘調査報告書Ⅱ一』神岡町教育委員会・富山大学考古学研究室, 1996年3月
 47. 「近世城下町の成立」石井進・千田嘉博編『城の語る日本史』朝日新聞社, 1996年10月
 48. 「十三湊住僧の奥書のある大般若経」『十三湊遺跡Ⅱ一青森県第2次発掘調査概報一』青森県教育委員会, 1997年3月
 49. 「江馬氏と古道」『江馬氏城館跡一下館跡発掘調査報告書Ⅲ一』神岡町教育委員会・富山大学考古学研究室, 1997年3月
 50. 「織田信長の楽市令」『特別展図録 城下町の黎明一信長の城と町一』安土城考古博物館, 1997年10月
 51. 「京都大学所蔵『マリア十五玄義図』の調査」(神庭信幸他との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』76集, 1998年3月
 52. 「文献資料による考察(補足)」『江馬氏城館後Ⅳ』神岡町教育委員会, 1998年3月
 53. 「中世の制札」『特別展図録 高札一支配と自治の最前線一』大阪人権博物館, 1998年4月
 54. 「室町時代の小京都」『あうろーら』12号, 1998年7月
 55. 「国人館と花の御所」『岐阜県城館研究会会報』3号, 1999年8月
 56. 「国立歴史民俗博物館の展示リニューアル」『博物館研究』35-4号, 2000年4月
 57. 「花の御所と室町期の館」・「花の御所の糸桜」・「軍陣の作法一氏勝くん, 大将への道一」・「『落合左平次背旗』復原の顛末一上か下か一」・「安土城下町への道」・「信長の政権構想① 安土城の清涼殿と公家一統の政道」・「信長の政権構想② 龍の意匠一安土城天主と朱印」・「村上城の中の中世と近世一表か裏か, または近世の城主はなぜ風邪をひきやすくなったか」『企画展示図録 天下統一と城』国立歴史民俗博物館, 2000年10月
 58. 「『出陣次第』一父が子に与えた大将の作法マニュアル一」『歴博』104号, 2001年1月
 59. 「佐倉藩士の家に伝わった中世文書」『佐倉市史研究』14号, 2001年3月
 60. 「イギリスの博物館の現状」『国立歴史民俗博物館研究報告』90集, 2001年3月
 61. 「東家本「マリア十五玄義図の調査」」(神庭信幸との共著)『国立歴史民俗博物館研究報告』93集, 2002年3月
 62. 「家族向けのプログラム『れきはく親子クイズ』」・「教育員実習『れきはくへいこうよ一教育プロジェクト活動報告1998~2000一』」国立歴史民俗博物館, 2002年3月
-

-
63. 「佐倉藩士の家に伝わった中世文書（補足）」『佐倉市史研究』15号, 2002年3月
64. 「再び『落合左平次背旗』の復元について」『歴博』114号, 2002年9月
65. 「僧侶の旅」『企画展示図録 中世寺院の姿とくらし』国立歴史民俗博物館, 2002年10月
66. 「イギリスの博物館はどうなったか」『神奈川県博物館協会会報』75号, 2004年3月
67. 「家族向けの教育プログラム」・「教育員実習—教育員養成のためのカリキュラム研究—」ほか『れきはくにいこうよ—国立歴史民俗博物館教育プロジェクト活動報告2001—』国立歴史民俗博物館, 2003年3月
68. 「家族向けの教育プログラム」・「博物館教育スタッフ養成のカリキュラム研究」『れきはくにいこうよ—国立歴史民俗博物館教育プロジェクト活動報告2002—』国立歴史民俗博物館, 2004年3月
69. 「豊後府内と臼杵」『大分の中世城館 第4集（総集編）』大分県教育委員会, 2004年3月
70. 「博物館教育スタッフの実習・研修について」科学研究費報告書『博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究』国立科学博物館, 2004年3月
71. 「消費と社会」・「旅の消費—永禄六年北国下り遣足帳の世界—」『歴博』124号, 2004年5月
72. 「守護所から戦国城下町へ」守護所シンポジウム @ 岐阜研究会世話人編『守護所・戦国城下町を考える 第1分冊』守護所シンポジウム @ 岐阜研究会, 2004年8月
73. 「「学融合」へのコメント—文献史学から—」前川要編『中世総合資料学の可能性—新しい学問体系の構築に向けて—』新人物往来社, 2004年11月
74. 「博物館教育員実習の試行（2000～2003）」『国立歴史民俗博物館研究報告』121集, 2005年3月
75. 「楽市令制札とその背景—新出の秀吉制札をめぐって—」『中世考古学の総合的研究 第2回総合会議研究論文集』科学研究費特定領域研究「中世考古学の総合的研究」事務局, 2005年3月
76. 「楽市令と都市建設」『中世の城・都市・建築』科学研究費特定領域研究「中世考古学の総合的研究」A01-1 班中間報告, 2005年3月
77. 「文献史料から見た十三湊と安藤氏」『青森県十三湊遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会, 2005年3月
78. 「資源共有化のための歴史資料データベースの Dublin Core へのマッピングの検討」（安達文夫・鈴木卓治・高橋一樹との共著）『情報処理学会研究報告』76号, 2005年7月
79. 「参加する博物館—内外の博物館教育から—」『歴史地理教育』695号, 2006年2月
80. 「「寛永十六年がれうた船渡海禁止高札」他」『国立歴史民俗博物館研究報告』133集, 2006年12月
81. 「マリア十五玄義図・「島原」・鎖国令高札—シンポジウムテーマ「城・外交・祈り」に寄せて—」服部英雄・千田嘉博・宮武正登編『原城と島原の乱—有馬の城・外交・祈り—』新人物往来社, 2008年11月
82. 「洛中洛外図屏風から風俗画と地誌へ」『総研大 教員学生連携研究「日本中世・近世の地誌と風俗」報告書』総合研究大学院大学, 2010年3月
83. 「「出陣次第」—戦国武将のまじない—」『歴博』163号, 2010年9月
84. 「洛中洛外図屏風の系譜」・「職人風俗絵巻」と「洛中洛外図屏風歴博 F 本」『歴博』164号, 2011年1月
85. 「「出陣次第」—戦国時代の戦陣故実—」（マルクス・リュッターマンとの共著）『国立歴史民俗博物館研究報告』163集, 2011年3月
86. 「研究者紹介：中世と近世 城下町と博物館」『歴博』168号, 2011年9月
87. 「洛中洛外図屏風歴博甲本の復元」『歴博』170号, 2012年1月
88. 「企画展示「洛中洛外図屏風と風俗画」」『歴博』171号, 2012年3月
89. 「歴史を展示する—現状複製と復元複製—」『月刊みんぱく』36-3号, 2012年3月
90. 「洛中洛外図屏風—美しさの背後にあるもの—」『HUMAN』2号, 2012年3月
91. 「史料紹介「永禄六年北国下り遣足帳」」『日本歴史』784号（口絵）, 2013年9月
92. 「歴博甲本「洛中洛外図屏風」」『新発見! 週刊日本の歴史』26号, 朝日新聞出版, 2013年12月
93. 「中世制札の機能と形」『企画展示図録 中世の古文書—機能と形—』国立歴史民俗博物館, 2013年10月
-

94. 「大和三位入道宗恕家乗」一軍配者の故実と伝承一『国立歴史民俗博物館研究報告』183集, 2014年3月
95. 「保存用の制札—木に書かれた文書」の89.意味一『歴博』184号, 2014年5月
96. 「それは誰が見たかった京都か—構図に見る洛中洛外図屏風の系譜関係—」『特別展図録京を描く』京都文化博物館, 2015年3月
97. 「洛中洛外図屏風と小京都」『特別展図録—乗谷 戦国大名の栄華— 一乗谷朝倉氏遺跡資料館, 2015年9月
98. 「中世から近世へ—政治・経済・文化の流れと切れ目—」『歴博』205号, 2017年11月
99. 「歴博国際研究集会「東アジアにおける文字文化とジェンダー」に参加して—特に「画指」について—」『日本列島社会の歴史とジェンダー—ニューズレター—』7号, 2018年5月
100. 「経光卿改元定記 寛元・宝治・建長」『日本歴史』845号(口絵), 2018年9月
101. 「日本の遺跡: 中世編 遺跡を訪ねて」『学会会報』934号, 2019年1月
102. 「遺跡を尋ねて 京都—首都と霊場の今昔—」『学会会報』935号, 2019年3月
103. 「見て楽しむ中世の古文書 花押とその位置—古文書を様式で見るとのこと—」『kotoba』35号, 2019年3月
104. 「見て楽しむ中世の古文書 印のある文書」『kotoba』36号, 2019年6月
105. 「遺跡を訪ねて 一乗谷朝倉氏遺跡」『学会会報』938号, 2019年9月
106. 「見て楽しむ中世の古文書 契約の文書」『kotoba』37号, 2019年9月
107. 「町のうどん屋, 長〜い歴史」『日本経済新聞』2019年9月4日
108. 「遺跡を訪ねて 観音寺城と安土城」『学会会報』939号, 2019年11月
109. 「見て楽しむ中世の古文書 約束を神仏に誓う」『kotoba』38号, 2019年12月
110. 「見て楽しむ中世の古文書 木に書かれた文書」『kotoba』39号, 2020年3月
111. 「遺跡を尋ねて 二条城—京都の近世—」『学会会報』942号, 2020年5月
112. 「見て楽しむ中世の古文書 紙の使い方と種類」『kotoba』40号, 2020年6月
113. 「見て楽しむ中世の古文書 移動する文書—文書は誰の物か」『kotoba』41号, 2020年9月
114. 「地誌としての歴史—在宅勤務で考えたこと—」『千葉史学』77号, 2020年11月
115. 「見て楽しむ中世の古文書 伝来—文書の残り方—」『kotoba』42号, 2020年12月
116. 「日記・文書としてのツイッター」(『REKIHAKU』3号, 2021年6月)
117. 「益田の城下」『企画展示図録—中世武士団—地域に生きた武家の領主—』国立歴史民俗博物館, 2022年3月

(総合誌『歴博』特集号編著)

1. 『歴博』118号 特集「歴史展示」(2003年5月)
2. 『歴博』124号 特集「中世の消費」(2004年5月)
3. 『歴博』164号 特集「洛中洛外図」(2011年1月)
4. 『歴博』184号 特集「中世の古文書」(2014年5月)
5. 『歴博』208号 特集「年号と朝廷」(2018年5月)

V ポスター発表など

1. 「マリア十五玄義図の調査」(英文, 神庭信幸との共同発表) IIC (国際文化財保存学会) 第17回大会, 1998年9月6日, アイルランド共和国ダブリン トリニティーカレッジ
2. 「国立歴史民俗博物館の学習支援事業「れきはく親子クイズ」とデジタルコンテンツ「京都の町並み」国際シンポジウム「世界の現場から 今, 博物館教育を問う—家族, 学校, 地域に向けての取り組み—」, 2006年2月4日, 東京国立博物館
3. 「ICOM・CECA Asia-Pacific Regional Meeting 2013」ICOM (国際博物館会議) リオデジャネイロ大会, 2013年8月10-17日, ブラジル共和国リオデジャネイロ Cidade das Artes

-
4. 「うどん屋の看板」総研大学術交流フォーラム 2015, 2015 年 11 月 21・22 日, 国文学研究資料館
 5. 「描かれた都市の暮らしを DB に— 16 世紀の洛中洛外図屏風人物データベース—」日本デジタル・ヒューマニティーズ学会 JADH2016, 2016 年 9 月 12 日, 東京大学
 6. 「洛中洛外図屏風の系譜と発注者—「歴博甲本」の作り方—」総研大文化フォーラム 2016, 2016 年 12 月 10・11 日, 国際日本文化研究センター
 7. 「後家尼と家族の図像—中世末～近世初の日本の風俗画から—」総研大文化フォーラム 2017, 2017 年 12 月 2・3 日, 国立歴史民俗博物館
 8. 「駒札考—日本人はなぜ尖頭五角形の板が好きなのか—」総研大文化フォーラム 2019, 2019 年 11 月 30 日・12 月 1 日, 国文学研究資料館
 9. 「日本中世の女性の地位は低下したのか?—^{ジェンダー}「性差の日本史」展によせて—」総研大文化フォーラム 2020, 2020 年 12 月 5・6 日, 国際日本文化研究センター

VI データベース・デジタルコンテンツ制作（主な関与）

1. 「荘園関係論文目録データベース」(1993 年 12 月)
 2. 「館蔵中世古文書データベース」(1998 年 8 月)
 3. 「電子企画展：洛中洛外図屏風」(2003 年 8 月)
 4. 「電子企画展：中世の武家文書」(2004 年 6 月)
 5. 「古代中世都市生活史（物価）データベース」(2004 年 7 月)
 6. 「中世制札データベース」(2006 年 12 月)
 7. 「中世地方都市データベース」(2008 年 3 月)
 8. 「e ラーニング：洛中洛外図屏風歴博甲本」(2009 年 12 月)
 9. 「洛中洛外図屏風歴博甲本・乙本人物データベース」(2012 年 3 月甲本版公開, 乙本統合版は 2017 年 1 月公開)
 10. 「日本の中世文書 WEB」(2020 年 1 月公開開始～2022 年 1 月完成, 2022 年 2 月モバイルミュージアム版制作)
-